



2007秋田わか杉国体まで
あと636日

広
報

明けましておめでとうございます！

2006 平成18年

編集発行 秋田市広報課

1月1日号 NO.1616 毎月1日・16日発行

あけまして
おめでとう

新春市長ほっとコラム

あなたがいるから……



わたしも1歳でしゅ。

「去年1月11日に生まれたんだよ。そう、秋田市が合併した日！
わたしも、新・秋田市も、すくすく成長中！」

浅野^{ゆま}友麻ちゃん(雄和向野)





今年もがんばるぞ！
オ～ッ！！

新春ほっとコラム

実りある二〇〇六年に向かって

秋田市長 佐竹 敬久

1月9日に市立体育館で行われる「新成人のつどい」の実行委員会のみなさんと

新年おめでとうございます。二〇〇六年、平成十八年戌年のお正月をいかがお過ごしでしょうか。

ご覧のように元気いっぱいの新成人のみなさんは、もうすぐ成人式。それが過ぎると、各地でさまざまな小正月行事が行われます。秋田市でも、ぼんでん、ヤマハゲ、火振りからまくら、鳥追いなど伝統行事が数多く継承されており、改めて、郷土秋田の歴史と文化の豊かさを感じる時期でもあります。

五穀豊穣、家内安全、商売繁盛。小正月行事は、その年の豊かな実りと幸せを願うものです。

これを秋田市政に置き換えれば、市政の豊かな実りとは、市民一人ひとりの幸せにつながる各分野の目標を、着実に実現させることと言えるでしょう。

新春ほっとコラムでは、秋田市がめざしている目標、二〇〇六年に結

実させようとしている実りのいくつかを紹介します。

新たな門出からはや1年

河辺・雄和両町との合併からまもなく一年を迎えます。

旧秋田市のみなさんには、もともと親近感の強かった旧両町でもあり、自然、文化、産業など多くの面で魅力あふれるエリアであることを、改めて感じたかたも多いのではないのでしょうか。

岨谷峡、名瀑・伏伸の滝の秀麗な姿や高尾山から望む雄物川の雄大な景観は、名勝と呼ぶにふさわしい自然美を誇っていますし、大正寺おけさ、河辺太鼓などの伝統芸能は、さまざまなイベントを大いに盛り上げておられます。また、温泉やスポーツ施設、

大町で繰り広げられた街角ライブ「ザ・パワー・オブ・ミュージック」



スペシャルオリンピックスのトーチラン秋田



雄和公民館の「わんぱく王国」



NPO法人が企画・運営している日帰り遠足(在宅子育てサポート事業)

さらには、石井露月の顕彰やへそまつりなどの文化事業・イベントなど、合併を機にその魅力を存分に楽しめられたかたも多かったと思います。

このような旧両町の魅力ある地域資源は、旧秋田市の地域資源と一体的に活用することによって、いつそその持ち味を発揮し、新市全体の魅力を相乗的に高めてくれるものと思います。

合併により拡大した地域資源は、もちろん、観光面だけではありません。空港を活かした高次集積都市の実現や農業振興など、新市発展の可能性は無限に広がっています。今後とも、各地域の個性と全体の一体性を大切にし、それぞれの地域の輝きが全市の魅力につながるようなまちづくりを進めていきましょう。

まちづくりの視点

地域と市民パワーを結集して！

新たな年の始まりにあたり、私なりにまちづくりのめざす姿に思いを巡らせてみました。

これからのまちづくりは、「地域と市民のパワー」を活かすことがキーワードになるのではないかと考えています。

そのため市では、市民協働、都市内地域分権という考え方を市民と共有できるよう、さまざまな取り組みを進めております。

例えば、新しく始めた在宅子育てサポート事業では、親子で出かける日帰り遠足プランについて、市から初めてNPO法人へ事業委託しましたが、地域ごとに行き先や内容を変えるなど工夫を凝らした企画にすることができ、参加した親子に大いに楽しんでいただけたと思います。

これからは、このような市民パワーを育みながら、これをいっそう結集し、市民生活のさまざまな場面で十分に発揮していただくことが大切だと感じており、市としてもこれを実現できるような取り組みを進めていきたいと考えています。

市民のみなさまには、それぞれにできる範囲で、ともに力を出し合っただけで、よりよい地域づくりの主人公としての活躍を大いに期待しております。

創意で築かれる地域自治の拠点

市民サービスセンター

夏の選挙では、市内をくまなく回り、市民の息づかいを感じる生活風



まちを盛り上げるイベントを考える「アルヴェ DE ヨルカイギ」



西部地域で行われている市民サービスセンターのワークショップ

景に触れることができました。ごみ収集後の清掃や共用グラウンドの草むしりなど、地域に住むかたがたが自発的に一生懸命取り組んでいるところは、住民間のトラブルなども少なく、地域がよくまとまっていることを感じました。

地域のことをいちばん理解し、地域を形づくっていくのは、そこに住む人たちです。もちろん、行政がやるべきことと、地域が主体となることができることがありますので、それぞれの責任と役割分担のもと、地域の課題を地域で解決できる仕組みをつくっていく必要があります。

そこで、地域住民が地域の課題を解決していく拠点として考えているのが、市内七地域に整備を予定している「(仮称)市民サービスセンター」です。このセンターでは、現在の支所で行っている行政機能のほか、地域の課題を独自に解決できるようなシステムをつくることも考えており、その在り方を検討しているところ です。

すでに、(仮称)西部地域市民サービスセンターが、平成十九年度の着工に向け具体的な準備に入っており、この西部地域が今後のモデルケースとなります。その建設にあたっては、地域住民とのワークショップや説明会により、その地域に必要な機能な

どについて互いに意見や考えを述べ合いながら十分な検討を行います。このことを通じて、市民と行政が情報を共有し、知恵を結集した成果としての住民自治の拠点を築きます。

国民体育大会まで1年

市民一人ひとりの手で みんなの感動のために

昨年も野球やサッカー、マラソン、相撲、ゴルフなどのさまざまなスポーツで数々のドラマや記録が作り出されました。なにかと物騒で、冷たく乾いた社会的雰囲気さえ感じさせる今日ですが、スポーツだけは人々の心に感動と興奮を与えてくれる、いわば現代の世に欠かせないビタミン剤であると感じています。

もちろん選手にとっても、その栄光の陰には、自らのたゆまぬ努力に加え、ファンやサポーターの熱い声援があったことは言うまでもありません。選手に続く背番号を身につけ、一糸乱れぬ声援を送るその姿に、選手は一体感を感じ、大いに勇気づけられたことでしょう。

今年は、秋田わか杉国体を一年後に控えた年に当たります。リハーサル大会の開催など、平成十九年の大会本番に向けて着々と準備が進んで

いますが、国体を一過性のイベントに終わらせず、秋田市の魅力を発信し、地域の活性化と連帯感を醸成するために、市民のみならず共に力を合わせ、大会を成功に導くという一体感が欠かせません。

昭和三十六年の秋田国体は、温かい県民性と手厚いもてなしから「まごころ国体」として参加者の絶賛を浴びました。

「準備九割」と言われるように、今から一人ひとりが大会のホスト役という心意気を持ち、一丸となつて盛り上げていけば、必ずや後世に語り継がれる大会となることでしょう。

まもなく約半世紀ぶりに秋田に国体が帰ってきます。今、この秋田市に暮らし、この国民的イベントに巡り会えたことへの喜びをかみしめ、世代を越えた感動をもに分かち合いましょ。

世界の中の あきたであれ

秋田 ソウル間の国際定期航空便の就航からはや五年、また、開設から十年になる秋田港の国際コンテナ航路は、東北第二の取扱実績を誇るなど、秋田市と海外との結びつきは密接になりました。

多くを改め、 新しい気持ちで全力で歩む。



中国・蘭州市を訪問した佐竹市長



スギッチと一緒にわか杉国体までカウントダウン！

社会・経済のグローバル化は年ごとに進展しており、こうした中でさらなる発展をめざすためには、目標を高く、広く世界に目を向けることが不可欠になってきています。

陸・海・空の物流インフラが揃った本市では、これらの地域資源を産業振興に戦略的に駆使していくことが可能です。

まず目を向けるべき先は、日本海を挟んだ対岸の諸国です。特に、世界の工場から巨大消費市場へと変容しつつある中国では、秋田県貿易促進協会大連事務所が開設されるなど本市からの足がかりが整備され、市内企業も市場拡大へ積極的に取り組み始めました。

さらに、市としても中国のほか韓国や台湾、ロシアなどへの経済交流ミッションに職員を派遣し、さらなる貿易拡大の可能性を探る取り組みを続けています。ロシアもその大きな体で、石油などのエネルギー資源を携えて、日本海にビジネスの触手を伸ばしてきています。

このような中であって、「相手は海

外である」という心意気こそ、秋田市の未来を豊かなものにしてくれる源です。

海外との交流は、物質的な豊かさだけを求めるものではありません。国境や言葉の壁を越え心と心が通じたときの喜びは、誰もが感じるところです。

さらに、異文化との出会いは、私たちが培ってきた豊潤な文化や風土の素晴らしさを再発見する好機ともなります。この先、外国のかたと身近に接する機会もますます増えていくでしょう。文化や習慣、考え方の異なる人たちが、互いの違いを認め合い、より良い関係を築いて暮らしていくことは、私たちが住む地域社会を必ずや豊かにしてくれます。

おわりに...

改新

私たちは何故、元旦の朝に特別なすがすがしさを感じるのでしょうか。それは、正月を迎えることにより、私たちの心に、情性に流されがちな日常にくさびを打ち、新たな一歩を踏み出す意欲と活力をわかせてくれるからだと思えます。

正月は、自己発見、自己再生の絶好の機会です。「一年の計は元旦にあ

り」とのことわざにあるように、新しい年に何か新しいことを始めてみてはいかがでしょうか。

仕事が忙しく、毎日、帰りが遅いかたは、今年はせめて週に一日でも早く家に帰って、家族とのコミュニケーションを深めることを目標としてみませんか。

職場や学校の往復が中心のかたは、地域の行事やさまざまな団体の活動に参加してみませんか。きつと新しい世界が広がります。そのための情報は広報あきたや市のホームページなども最大限に活用してください。

毎日の生活をちょっと見つめ直すことで、新しい自分が見つかるかもしれません。そして一人ひとりの生活の充実が積み重なって、「しあわせ実感 緑の健康文化都市」が実現するものと考えております。

「改新」。時代がいつそう厳しくなる中であっても、今年を秋田市の実りある年にするため、この言葉をモットーに、多くを改め、新しい気持ちで全力で歩んでまいります。

あなたがいるから…

マイベストパートナー

あなたの大切なパートナーは誰ですか。信頼し合い、励まし合い、ときにはぶつかりあい。何でも話せて、わかりあえる。そんな素敵な関係、みつつけた！



ハーネスから伝わるあたたかい光

船木修さん・盲導犬・ラン

盲導犬ラン。一昨年の十月、船木さんのもとに二代目の盲導犬としてやって来た、ラブラドル・レトリバーの三歳、メス。船木さんが両目の視力を失ったのは今から五年前、三十八歳の時でした。「目が悪くなつてからは、常に不安を抱えながら歩いてきた」と話す船木さんが、知人のすすめで最初の盲導犬と出会ったのは平成十三年の夏。それまで使っていた白杖の代わりに、ハーネス(胴輪)を握ることになりました。

「おかげで歩くときの不安はすっかり消えた」そうですが、残念ながらその時の犬は病気で故郷の北海道へ帰ることに。そして、新しくやってきたのがランです。「少しおつちよこちよいなところがあって、散歩の途中、帰り道をまちがってしまふこともあるんですよ」とほほえむ船木さん。それでも、「ランはかけがえのない家族の一員。ハーネスをとおして、私に力強い、そ

してあたたかい光を与えてくれるんです」と話します。

はり・マッサージ治療室の開業にあわせて引越した新屋に住んでまだ日が浅いため、ランの大好きな散歩は、いつも同じコースになつてしまいがち。「もう少しコースを増やさないとなんかしかられちゃうな」。持ち前の明るさとチャレンジ精神は、ランのおかげで、いっそう大きくなりました。

「いつかランとふたりで旅行をしたいですね」。そう話す船木さんの表情をかたわらでじつと見守るラン。「まかせておいて。私がついているわ。いっしょにがんばろうよ」。なんて思っているのかな。



お仕事中のランちゃんです



「めざせトップリーグ。がんばってよ〜！」

がちりスクラム2千人

秋田ノーザンブレッツ 松橋^{ともりのり}寛則選手
サポーター 豊澤あさ子さん

ラグビーのクラブチーム「秋田ノーザンブレッツ」は、サポーターも大切なメンバーの一員。その温かい声援や励ましがチームを支えています。

「ブレッツは、わたしの元気のもと」という豊澤さんは、前身となった市役所旧ラグビー部時代からの筋金入りのファン。県外の試合にもかけつける熱心なサポーターの一人です。選手たちの気迫あふれるプレーに「走

れーっ、止める！」と声援に力が入ることもしばしば…。

そんなサポーターの熱い応援が、選手の気持ちに火を付けます。「応援してくれるみなさんには、プレーで恩返しします。見ていてください！」と松橋選手。

現在、約二千人を数えるノーザンブレッツのサポーターは、今年も選手と一緒に、がちりとスクラムを組んで、勝利へ向かって突き進みます。

愛しているからガンバレ!

国際結婚9年目
佐藤勝行さん・ピエダさん

(コロンビア出身)



コロンビア国旗

佐藤さん夫妻は南米のコロンビアで出会って結婚。秋田で暮らして七年になります。

ピエダさんは秋田の生活に慣れようと、子どもが寝ている間に言葉勉強したり、テレビドラマを見て生活習慣を覚えたり

してがんばってきました。お父さんと娘と一緒に風呂に入ることや晩酌など、コロンビアにはない習慣にびっくりすることもいっぱい。まちがって^{もみ}穀が付いたままのお米を炊いてしまっなど、いろいろと失敗もありました。でも、今ではそんな話を思い出し、夫婦で笑って話せるようになりました。

妻のがんばりを隣りで支えてきた勝行さんは「彼女なりの努力がうれしい。そのがんばりに、頭が下がります」と話します。

「愛しているからがんばれました。愛がなかったら、コロンビアに帰っていたでしょうね」と笑うピエダさん。

相手の気持ちにこたえたいという強い思いが、二人をぎゅっと結び付けています。



長女の菜津美ちゃん、二女の瑠菜ちゃんと一緒に

厚い信頼をボールに込めて

秋田商業高校野球部

佐藤 洋^{よゆう}くん・鳥井 将^{すずむ}くん

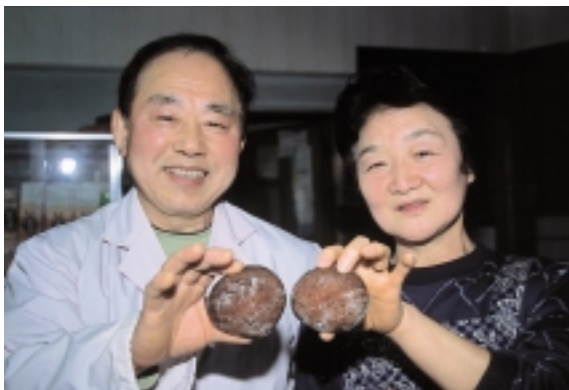
「一緒に戦った、昨年の東北大会での優勝が一番の思い出」と笑顔で話す、バッテリーの二人。捕手の鳥井くんは、「洋はおとなしそつに見えるけど、闘争心は人一倍。ピンチの時こそ、気持ちで投げてくるのが、洋らしい」。一方、投手の佐藤くんは、「マウンド上では落ち着いているように見えるけど、内心は余裕がないことも…。そんなとき、ドンピシャのタイミングでタイムを取ってくる鳥井。とても頼りになります」と抜群の信頼関係です。

二人の心をつなぐのは、言葉だけでなく、言葉だけではありませぬ。鳥井くん曰く、練習や試合での投球のとき、佐藤くんも気付かない、その日の調子が、ボールから伝わってくるのだとか。それをふまえたリードのおかげで、「迷いなく思いっきり投げられる」のが、佐藤くんの持ち味となっています。

昨夏は、鳥井くんがケガで出場できなかったこともあり、今年の目標は、「二人そろって甲子園大会出場！」。春の甲子園大会出場が期待される秋商野球部。力強いバッテリーの言葉が、二〇〇六年の大活躍を予感させてくれます。



チーム一丸となってがんばります！



2人をつなぐ しっとり銘菓

河辺銘菓 “黒いドーナツ”

佐々木恒徳^{こうとく}さん・セツ子^{せつこ}さん



「常識的な発想ではだめ」。食べ物の名前にはあまりふさわしくないという「黒」という字を商品名にした理由を、河辺の和田商店街、松月堂店主・佐々木恒徳さんはそう話します。

その言葉どおり、「黒いドーナツ」と名付けたこの逸品は、丸い穴もなければ、中身も白あんといい、今までのドーナツにはない発想で生み出されました。

味のほうはというと、「時間がたってもしっとりしておいしい」と、評判が口コミで広がり、発売から約三十年、河辺銘菓といわれるまでになりました。

菓職人である恒徳さんを陰で支えるのは、妻のセツ子さん。袋詰めやシール貼り、お店での接客は、セツ子さんの仕事。役割分担してがんばってきました。

「商売は、年をとると一人では何もできない。夫婦頼り合ってやっています」との恒徳さんの一言に、照れながらうなづくセツ子さん。結婚四十年のベテラン夫婦の関係は、名物ドーナツと一緒に、ときを経て、味わいあるものになっているようです。

佐々木松月堂 tel(882)2480



「これからもガラス工芸の魅力を伝えたいですね」

ガラスの輝きのよつに

ガラス作家
小牟禮尊人さん・美穂さん



「輝きが生まれるのは瞬間」、残るのは「永遠」。ガラスの魅力をそう語る尊人さん。現在、秋田公立美術工芸短大で学生にガラス工芸を教えています。そして、「お互いの作品を批評し合うことはないんですが、できあがった作品の名前をいっしょに考えることはありますよ」と話すのは、同じくガラス作家で、トンボ玉の制作を得意とする妻の美穂さん。

鹿児島出身の尊人さん、そして東京出身の美穂さんが秋田に来てまもなく五年。ガラス工芸の講座を開くなど、二人で力を合わせて秋田のガラス文化定着に力を注いでいます。昨年には、二人自ら実行委員となって「あきたグラスフェスタ」を開催。制作体験ではたくさんの参加者を魅了することができました。

ともにガラスの魅力に惹かれ、「ガラスに親しんでほしい」と話す小牟禮さん夫妻。しっかりと目標を持ち、意欲的に、色あせることなく輝き続けることが、二人三脚の秘けつなんですね。

マイベストパートナー



わたしたちの人生 まだまだこれから

高齢者学級でイキイキ！

佐藤助久さん・規美さん



雄和公民館の高齢者学級「花陽クラブ」で学んでいる佐藤助久さん、規美さんは結婚五十二年目のなかよし夫婦。二人で欠かさず出席し、月に一度、講話やレクリエーションを楽しんでいます。

佐藤さんのお宅は兼業農家。助久さんの退職まで、仕事、農業、家事、育児と二人で一生懸命働いてきました。「十分働いたんだから、これからは自分の人生をどう楽しんでいくかな」と助久さん。

そんな二人は退職後、高齢者学級のほか、老人クラブで積極的に活動したり、旅行に出かけたり、とつてもイキイキ！「忙しくて、ぼんやりしてることねえな」と笑いますが、本当に毎日を楽しんでいるよう。助久さんは安養寺地区の老人クラブの会長を務めていますが、これも地域の人たちを誘ってくれる規美さんの協力で盛り上がっているそうです。

「今年も花陽クラブは続けたいし、たくさんの方が参加できるように呼びかけたい」（助久さん）。「今度はユフォーレの水中運動教室にも参加したい」（規美さん）と意欲が尽きない二人。その目は、今も昔もしっかりと同じ方向を見えています。

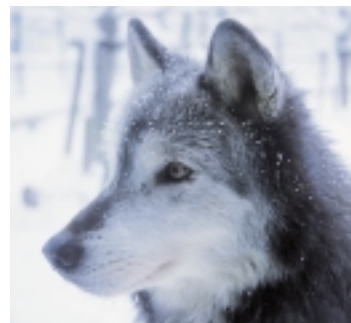


大森山動物園

雪の中のアムールトラも迫力抜群！



肩を組んで仲良く合唱



「オオカミ年もあればなあ...」
(シンリンオオカミ)

寒い秋田に ホットなニュースです。



冬期開園！

1月・2月の土・日・祝日

開園日 (土・日・祝日) 1月... 7～9日 14・15日 21・22日 28・29日
2月... 4・5日 11・12日 18・19日 25・26日

開園時間 午前11時～午後2時

入園料 中学生以下は無料 大人300円
年間パスポート(1,200円)も使えます。

問い合わせ 大森山動物園 tel (828)5508



「待ってるゾウ！」



今年もよろしくお願ひいたします

謹賀新年

市助 市助 市助 市助
助入 助入 助入 助入
市長 会長 役員 役員

榎高長菊相保芦近新宇前荻柏佐加三安相佐鈴米佐小小鎌小菅花塚小成猪明加渡工熊齊小鳥土石堀石渡赤佐松相佐
谷川地原坂田江岡美田原谷木谷浦井場原木山木田原松原田田林沢股石屋辺藤谷藤寺井田塚井川辺坂木谷場竹
(議席順) 智昭達政直晃喜 洋喜 幸晃正芳貞金孝忠七勇喜 修 弘清 一淳竹 千正四重善 秀明ひと良光敏温道敬
清徳一雄志一敏博雅朗蔵守彦二美博三二夫夫郎進雄 讓悦健夫美勇夫子作叡子宏郎隆悦誠修整博美み雄 一雄子也久